

郷土の英傑 鮭延秀綱物語



最上郡の北部には、鮭延氏に関する史跡が数多く存在しています。鮭延(真室)城址がその代表ですが、戸沢村の岩鼻館、鮭川村の庭月館、安楽城の下鍋城址、野崎館、平岡梅里苑の平岡館、及位館、金山の兼山城等の館城が続きます。これらは戦国時代で、解っていないことも多くありますが、この郷土で繰り広げられた鮭延氏の勇猛果敢な生涯を、十二回シリーズでお届けします。

一、鮭延氏、出羽国入場

鮭延氏は近江(滋賀県)源氏の出で、佐々木を名のり、「平家物語」に登場する佐々木四郎高綱の血筋にあたる。重綱の時、長男でありながら代々の領地を与えられず、不満を隠しきれなかったが、近江の鯉江を所領。しかし応仁の乱(一四六七)以降、莊園の侵略や横領、戦乱の発生などがあった。これらのことが原因だと確定出来ないが、文明年間(一四六九〜八六)、一族と共に出羽国に下った初代綱村は、秋田県南にあたる仙北の領主、小野寺氏に仕え、現湯沢市三関の山地にある番城(山城)を預かった。



内町古城跡に町の有志によって建てられた碑

三代貞綱(秀綱の父)は、小野寺氏の所領であった最上地方に遣わされ、戸沢村岩鼻に城を構えた。眼下に交通の要所、最上川を望み、絶好の館(城)であった。ここには三蔵院屋敷という地名が残っており、また現在真室川にある長林寺や観音堂などがあったと伝えられている。(真室川町歴史研究会)

●参考文献 「鮭延城記」(真室川町教育委員会)、「真室川町史」(昭和四十四年度版、平成九年度版)、「増訂最上郡史」(新庄市教育委員会)、「南出羽の戦国を読む」(保角里志著)

※今月号を含め偶数月は、「郷土の英傑 鮭延秀綱物語」を連載します。「働く場所へ行ってみよう」は奇数月に掲載します。

表紙の紹介

たんぼぼこども園 入園式

4月4日(木)、たんぼぼこども園(佐藤弘子園長)で第5回入園式が行われました。今年度は4歳児3名、3歳児13名、2歳児9名、1歳児3名の合計28名が新入園児として加わり、昨年度からの在園児81名と合わせて総勢109名でのスタートとなりました。佐藤弘子園長をはじめとする保育スタッフ23名で、子ども達のすこやかな成長を見守っていきます。

